



## ウサギの目はなぜ赤いの

### アルビノは、色素が作れなくなった突然変異

野生のウサギの目は、かっ色が黒色です。赤い目をもつウサギは、突然変異で生まれたアルビノです。アルビノとは、白い色という意味で、色素を作る遺伝子がなくなる突然変異です。ウマ、シカ、ヘビなどでも起こります。いいことがおこる「しるし」として、むかしから大切にされました。神社などにいくと、神様からのお使いとして、このような白馬、白鹿、白蛇がかわれていることがあります。

アルビノのウサギは色素がないから、毛も白くなります。色素がないため眼球は透明になり、その奥にある網膜を流れる血管がすけて見えるので赤く見えます。

冬、白い毛に変わるユキウサギの目は黒いのです。

### 赤い目のウサギは日本独特

カイウサギは、野生のアナウサギを家ちく化したものです。日本には16世紀ごろ、オランダからきたといわれています。明治になって、いろいろな国から輸入された品種が混じり合い、日本白色種という品種ができあがったのです。日本白色種は、アルビノがもとになっていますから、白い毛で赤い目をしています。（監修・今泉 忠明）

